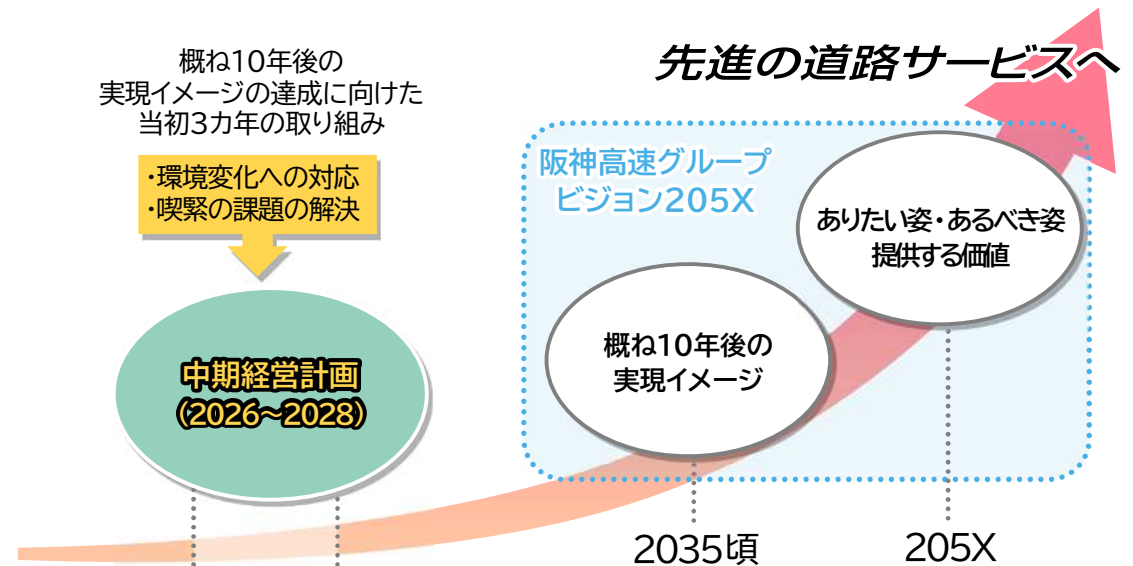


中期経営計画(2026~2028)の概要

〔1〕中期経営計画の位置付け

阪神高速グループは、グループビジョン205Xにおいて、205X年を想定した「ありたい姿・あるべき姿」と「提供する価値」からのバックキャストと、目下の事業環境の変化や将来見通しからのフォアキャストを組み合わせて、“概ね10年後の実現イメージ”を設定しています。

当社の中期経営計画は、この“概ね10年後の実現イメージ”に到達するための取り組みと、現在直面している、または近い将来に直面する環境変化や喫緊の課題に対応するための取り組みの双方を意識し、3年間の具体的な実行計画として策定しました。



〔2〕主な経営環境と取り組みの方向性

主な経営環境

気候変動対策・脱炭素化に向けた社会要請	激甚化・頻発化する自然災害
ネットワーク機能強化への期待	構造物の老朽化
少子高齢化・社会資本整備の担い手不足	デジタル技術の進展
多様化するライフスタイルニーズへの対応	DEIの推進
安全・安心・快適な道路サービスへの期待	ステークホルダーからの信頼性向上
革新技術の開発・実装	労務費・資材費の高騰

※取り組みの方向性は、阪神高速グループビジョン205Xの枠組みで整理
Mission(M) / Innovation(I) / Human Capital(HC) Field

M 変わらぬ使命をサステナブルに遂行	I 新たな価値の創出
1. ネットワーク整備の推進 2. 安全・安心・快適なサービスの一層の体感 3. 長期的な道路機能の維持 4. 大規模災害時における安全と道路機能の確保	I-01 移動・モビリティの高度化 1. 移動・輸送の進化への貢献 2. 多様な移動サービスの提供
HC 人の成長と技術力・ナレッジの進化	I-02 多様な機能を提供する都市インフラ 1. 周辺地域と調和した景観の形成 2. 阪神高速の有効活用に向けた検討
1. 人の成長 2. 組織力の強化 3. 技術力・ナレッジの進化 4. 生産性の向上・全体最適化 5. 社会との共創	I-03 関西さらにはグローバル視点での価値 1. 持続可能な地域づくり 2. モビリティ認証パッケージの提供 3. 保有資産(ハード)などを活用した事業の展開 4. 技術・ノウハウを活用した事業の展開 5. 気候変動への対応

中期経営計画(2026~2028)の概要

[3]中期経営計画の重点項目

阪神高速グループは、「サステナビリティ」を社会の共通の価値観と認識し、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、自らも持続的に進化・成長することを目指しており、その実現に向けて、計画期間においては「関西の持続的な発展への貢献」「先端・革新的技術の実装」「担い手不足への対応」に重点的に取り組みます。

項目	内容	主な取り組み
関西の持続的な発展への貢献	関西のくらしや経済の持続的な発展に貢献するため、渋滞解消のためのネットワーク強化、高速道路の長期的な機能維持と効率的な活用に加えて、ライフスタイルニーズの多様化に応える地域の魅力の発見・向上等に、地域と共に取り組んでいきます。	<ul style="list-style-type: none">● 淀川左岸線(2期)、淀川左岸線延伸部、大阪湾岸道路西伸部、名神湾岸連絡線の着実な推進● 11号池田線 加島付近、15号堺線 湊町付近など、事業化済みの大規模更新等事業の着実な推進● 料金所のETC専用化・無人化の推進● 複数地域の周遊促進など、地域と地域をつなぐ企画の実施
先端・革新的技術の実装	大阪・関西万博レガシーとなる新技術の社会実装を率先しながら、それらを含めた革新的技術の開発・実装や、デジタル技術の利活用を進めることで、お客さまのご要望・ご期待や社会課題に対応し、新たな価値を創出していきます。	<ul style="list-style-type: none">● 自動運転実現に必要な構造、運用、設備等の検討● 交通デジタルツインに基づき交通の最適化を図るプロアクティブな交通マネジメントの本格実装を目指した検討の深化● モビリティ認証パッケージの提供● 地球環境保全に資する技術開発の推進
担い手不足への対応	社会課題である担い手不足に対応するため、阪神高速のサプライチェーン全体での省力化・省人化の取り組みや、保有する技術力・ナレッジの幅広い活用等により、業務の効率化と生産性向上を図り、全体最適化を推進します。	<ul style="list-style-type: none">● 維持管理に係る業務プロセス効率化に向けたデータ利活用の推進● 道路等インフラの維持管理や用地取得支援などのノウハウを活用した事業を推進し、自治体等の業務を支援● 受発注者双方の調達業務の効率化に向けた「阪神高速版調達ポータル(PROZIT)」の全社展開● 建設現場での生産性向上に資する工法・資材等の積極的活用に向けた取り組みの推進

中期経営計画(2026~2028)の概要 [重点項目 - 関西の持続的な発展への貢献 -]

関西のくらしや経済を支える建設プロジェクトの推進 Mission Field

ミッシングリンクを解消し、お客さまの利便性向上、関西経済の活性化などに寄与するネットワーク整備を推進します。

- 淀川左岸線(2期)、淀川左岸線延伸部、大阪湾岸道路西伸部、名神湾岸連絡線の着実な推進



ネットワーク整備により期待される効果

- 大阪都心部や3号神戸線における慢性的な渋滞の緩和
- 国際コンテナ戦略港湾(大阪港・神戸港)への定時性の確保による物流の効率化
- アクセスの定時性の向上による人流活性化と関西3空港間の連携強化
- 災害、事故などの緊急時における代替路確保

料金所のETC専用化・無人化の推進 Mission Field

安定した高速道路サービス提供のために効率的で持続的な料金収受を実現する取り組みとして、料金所のETC専用化・無人化を一層推進します。

- ETC専用料金所の拡大



- 持続可能で効率的な料金収受体制の構築

遠隔サポートセンター(4箇所)におけるお客さま対応の集約化などを推進



遠隔サポートセンター

遠隔対応による業務内容例

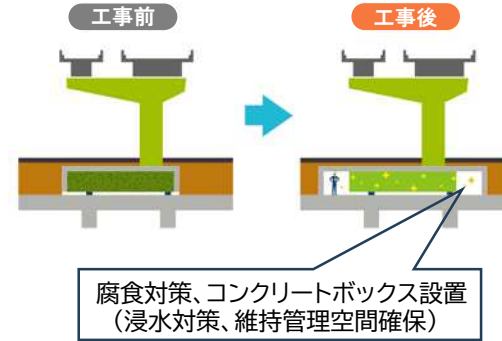
- ・ETCカード未挿入、通信異常への対応
- ・障がい者割引、仮ナンバー車への対応
- ・非ETC車への対応

遠隔対応機器の設置

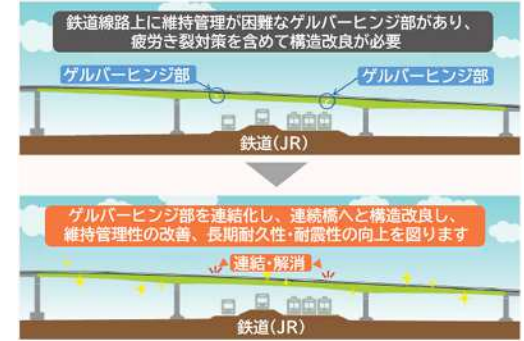
大規模修繕等事業の着実な推進 Mission Field

道路機能の長期かつ安定的な維持に向け、大規模更新等事業を着実に推進することにより、安全性と耐久性を確保します。

- 大規模更新事業の推進(15号堺線 湊町付近)
- 鋼製基礎の防食対策や維持管理空間の確保を実施



- 大規模修繕事業の推進(11号池田線 加島付近)
- 鉄道を跨ぐ連続鋼製橋梁を対象に、橋桁の連続化などを実施



地域連携の強化と観光資源の共創 Innovation Field

保有施設を活用したイベントや地域間をつなぐ企画の実施を通じて地域との連携を強化しながら、観光資源の共創などにより、持続可能な地域づくりに貢献します。

- 地域連携の強化

・地域活性化に資する施策を継続的に発展させるための事業モデルを構築



パーキングエリアでの地域連携イベント



地域と連携した周遊企画

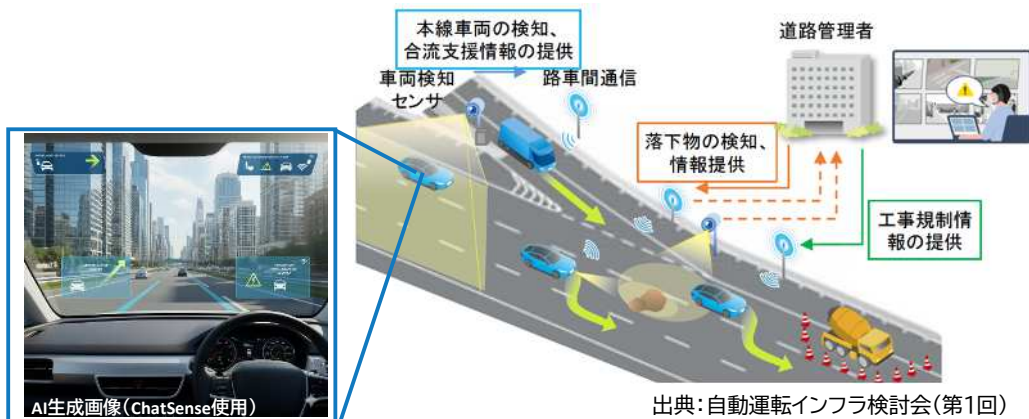
中期経営計画(2026~2028)の概要 [重点項目 -先端・革新的技術の実装-]

自動運転走行実現に向けた取り組み

Innovation Field

移動・輸送の高度化・最適化に向けて、関係者と協働して自動運転走行の段階的な技術検証を行うなど自動運転技術の社会実装に向けた取り組みを推進します。

- 自動運転走行の実現に向けた検討

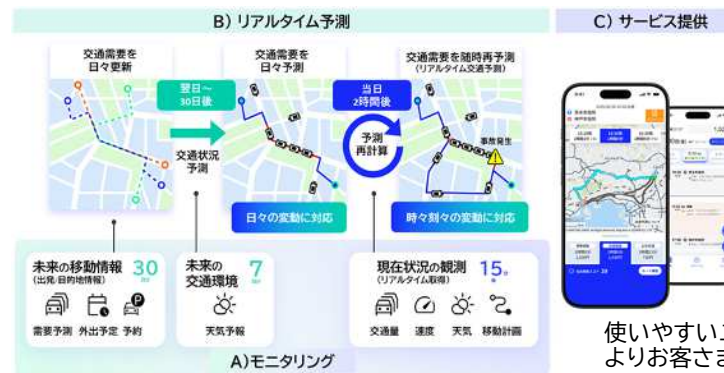


モビリティ情報提供の充実・高度化

Innovation Field

交通デジタルツインに基づき交通の最適化を図る「プロアクティブな交通マネジメント」の本格実装を目指して課題を整理し検討を深化します。

- プロアクティブな交通マネジメント
現実世界で最適な交通マネジメントを行うために、デジタル世界で膨大な試算を行い、最も評価値の高い施策を導出する「リアルタイム交通シミュレータ」を用いた渋滞予測を踏まえ、最適な施策を事前に導出して実行する実効性の高い交通マネジメントを実施



使いやすいユーザーインターフェイスによりお客さまにサービスとして提供

モビリティ認証パッケージの提供

Innovation Field

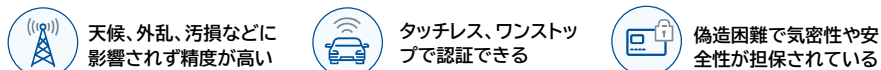
交通課題・社会課題の解決に貢献するため、モビリティ認証技術※を多目的利用できるよう、システムやノウハウなど一連の仕組みを様々な企業・事業者のみなさまに提供します。

- 顧客ニーズに合わせたモビリティ認証パッケージの提供

- ・モビリティ認証パッケージの活用例

ETCスマート割	阪神高速の混雑時間帯や混雑路線を避けてETCでご利用いただくと駐車料金割引サービス(実証実験中)
大型商業施設	大型商業施設への来場・退場渋滞が生じている場合、経路や時間帯による交通混雑緩和がETCにより実現可能
物流センター	物流センターへの入退場受付業務で天候などに影響されない高い精度の車両管理自動化がETCにより実現可能

- ・モビリティ認証パッケージの特徴(一例)



※モビリティ認証技術: ETCを利用して車両と運転者、施設などの利用者を認証し多用途に活用する技術

CO₂排出量削減・地球環境保全への貢献

Innovation Field

2050年カーボンニュートラルの実現を最終目標に、2030年度までにCO₂排出量を2013年度比で50%削減することを目指し、地球環境保全に資する新技術の開発を推進します。

- 再生可能エネルギーの活用
 - ・ペロブスカイト太陽電池の実装に向けた研究の深化(高速道路の屋外・日射環境における性能確認)
- 低炭素コンクリートの適用拡大
 - ・低炭素コンクリートの耐久性の検証と試験施工を踏まえた適用構造物の評価

ペロブスカイト太陽電池の性能確認状況



低炭素コンクリートの試験施工状況



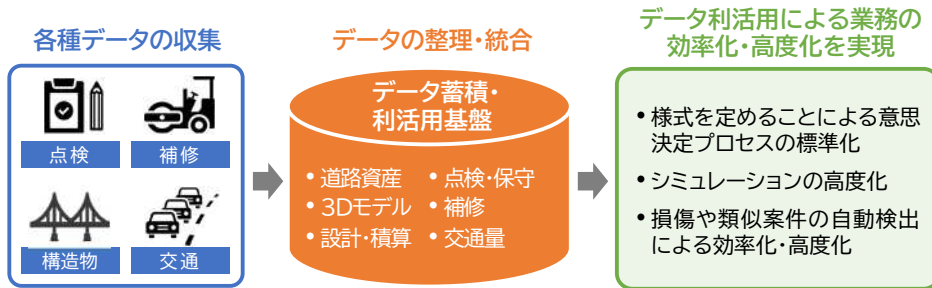
中期経営計画(2026~2028)の概要 [重点項目 -担い手不足への対応-]

維持管理業務の効率化・高度化

Mission Field

維持管理に係る業務プロセスの効率化に向け、BIM/CIM・点群データ等の活用と維持修繕・点検・交通データとの統合・連携などにより、データの利活用を推進します。

- データ利活用の推進



- 点検管理システム、交通関係データなど阪神高速COSMOS※の各データベースの精度向上と網羅性確保
- 各種データの連携により、維持管理や防災対策の効率化・高度化を実現

※阪神高速COSMOS: 阪神高速グループが保有する膨大な道路管理データを集約する情報システム群

技術・ノウハウを活用した事業の展開

Innovation Field

道路等インフラの維持管理や用地取得支援などのノウハウを活用した事業を推進し、道路の包括管理や自治体等の業務などを支援します。

- 用地補償コンサルティング
- 技術コンサルティング
- 用地取得や用地補償に関する課題について豊富な実績と経験による支援を実施
- 阪神高速道路に近い臨港道路や阪神高速道路をまたぐ橋の維持管理を代行



生産性の向上・全体最適化

Human Capital Field

担い手不足等の課題へ適切に対処していくため、受発注者双方における業務の効率化、省力化に向けた取り組みを進めます。

- 「阪神高速版調達ポータル(PROZIT※1)」と「工事情報等共有システム(Hi-Telus※2)」の活用によるデータ共有のシームレス化
- 工事等の調達時における競争参加資格申請から契約までの一連の手続きから契約後の連絡・調整や書類のやり取り等のシームレスなオンライン化を実現
- 建設現場での生産性向上
- 生産性向上に資する工法・資材等の積極的活用に向けた取り組みを推進



※1 PROZIT: 工事等の調達時において、競争参加資格申請から契約までの一連の手続きをオンラインにより一元化するシステム【入札手続きは電子入札システムにより対応】

※2 Hi-Telus: 工事・業務契約等における「連絡・調整」や「書類作成・取り交わし」の手続等をクラウド上で共有するシステム



プレキャスト床版の施工イメージ

出典: 国土交通省資料



システム足場の例

出典: 日本橋梁建設業協会資料